

# CSR活動アクションプラン

東洋アルミグループでは、創立100周年の2031年に向けて策定した東洋アルミグループ・サステナビリティ・ビジョンを念頭に置き、5つのCSR重要課題(マテリアリティ)について、目標を設定して取り組んでいます。2022年度の活動実績は、下表の通りです。前述の通り、2022年度にマテリアリティの見直しに着手しました。より現状に合ったマテリアリティを再設定し、持続可能な社会の実現に貢献できるように取り組んでいきます。

CSR重要課題	主なSDGsとの対応関係	主な活動項目	2022年度の活動実績	長期目標(2031年度)
1 未来を創る イノベーション		既存事業:SDG3、7、9、11、12に貢献する製品売上向上	SDGs貢献製品売上金額2019年度比1.2%減少	SDG3、7、9、11、12に貢献する製品売上高3倍に増加(2019年度比)
		新規事業:第4の柱(事業)を創出	事業化1件の目途	事業化2件
2 環境保全		事業活動からのCO <sub>2</sub> 排出量削減(2013年度比)	2013年度比23.2%削減	40%削減(2013年度比)
		太陽電池のリサイクルシステム構築	パートナー企業とリサイクル対象モジュールの回収・処理スキームを検討中	太陽電池リサイクルシステムの構築、リサイクル開始
		アルミニウムのリサイクルシステム構築	一部のお客さまの余剰材の再生を開始 加工箔からアルミニウムを抽出する技術の開発開始	(構築したシステムによる) アルミニウムリサイクルの一般化
		紙容器のリサイクルシステム構築	リバルブの課題であったフィルム混入率の大幅低減に成功 研究用リバルブ専用設備導入のための検証実施	(構築したシステムによる) 紙容器リサイクルの一般化
		事業活動からの産業廃棄物削減	前年度比3.5%削減	最終埋め立て産業廃棄物量ゼロ (全てリサイクルでゼロエミッション)
3 多様な 人財の活躍		女性採用比率の向上	新規採用における女性比率41.6%	新規採用における女性比率30%
		シニア人財の活躍	段階的な定年引き上げの検討	70歳定年制を中心とした制度の整備完了
		自律型人財の活躍	新人事制度にてプロフェッショナル職評価を実施・運用	自律型人財の育成の発展的な継続
		健康経営の推進	健康管理事業推進委員会による禁煙プログラムの推進	健康経営の発展的な継続
4 品質と安全		重大品質クレームの削減	重大品質クレーム0件	重大品質クレームゼロ
		休業災害、不休業災害、火気事故災害の削減	休業災害1件、不休業災害13件、火気事故5件 微傷災害17件(前年度16件)	休業災害ゼロ、不休業災害ゼロ、火気事故災害ゼロ、 微傷災害半減(前年度比) 重点取組事項:回転物関連・運搬具・場内転倒事故対策の強化
5 ステークホルダー との協働		さまざまなステークホルダー(地域、顧客、従業員など)との対話を通じて信頼度・満足度の向上	ステークホルダーダイアログ2件実施 メディアやWebでの情報発信や社内広報に注力	さまざまなステークホルダーと良好な関係を築き、 課題解決の一翼を担っている



# 未来を創るイノベーション



すでに顕在化している社会課題や潜在的な問題、市場の環境変化に対応するため、先端技術本部および新事業創造部門では、対象を「既存市場」「新市場」「次世代市場」の3つの市場に分類し、それぞれにリソースを投入して研究開発および事業化に取り組んでいます。自社だけでは解決が難しい場合は、国内外を問わず、ベンチャー企業や大学、研究機関などをパートナーとしてアライアンスを結ぶオープンイノベーションを積極的に推進しています。

私たちは、「共有価値の創造(CSV)」の観点を取り入れ、ステークホルダーとのコミュニケーションを深め、東洋アルミグループと社会との共有価値の創造を実現できる開発を行います。また、アルミニウムをベースにしながらもアルミニウムにこだわらず新しい発想で世界をリードしていくことを目指します。



## オープンイノベーションや事業部門との交流を強化。社会課題に貢献できる新たなテーマに挑み、東洋アルミグループの未来を創ります

SDGs・社会課題解決がモノづくりにかかせない大事な視点となっています。そんな中、我々の使命は、地球の環境保全に対応できる製品の開発で人々の暮らしを良くすることだと考えています。

2022年度は、2021年度にタネを蒔いた社会課題解決のための事業をステップアップさせました。アルミ電解コンデンサーに使われる粉末積層箔(捲回型)は量産を開始し、市場に出せる段階にきています。アメリカの電池技術のベンチャー24Mテクノロジーズ社と提携して次世代EV用電池の開発では、電池部材のさらなる性能の向上に向けた取組みを進めています。また、大阪大学と設立した「東洋アルミニウム半導体共同研究講座」の研究がNEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)の「エネルギー・環境新技術先導研究プログラム」に採択され、実用化に向けた歩みが進みました。さらに、ALPS処理水\*1の課題に対してトリチウムの除染技術

における大学との共同研究が二次評価を通じ、実用化に向けた評価・検討を行うフィジビリティスタディ\*2の段階に入っています。2022年度は、クリーンエネルギーや放射性物質の除染につながる3つの研究・開発に関する駒を進められたと考えています。

2023年度は、2022年度の成果を一層、前に進めていきます。特に、アルミ電解コンデンサー用箔やEV用電池部材の事業化、トリチウムの除染技術の実証試験実施への移行に向け、人的資源を投入し集中して取り組みます。また、太陽電池の変換効率の大幅な上昇に貢献する低温硬化銀ペーストの研究など新たな取組みも進めています。さらに市場の

ニーズが高い環境課題の解決策のひとつとして、海洋汚染も防げる生分解性プラスチック包装材の開発にも力を入れていきます。

これらの研究開発を進めるには人材育成が大事です。先端技術本部では女性や外国人の活用、オープンイノベーションで開発型人材を育成すると同時に、事業部門との交流を強化してエンドユーザーの環境意識の高まりを共有し、環境を始め社会課題の解決につながる製品や新技術を開発することで社会へ貢献していきます。

\*1 ALPS処理水:東京電力福島第一原子力発電所の建屋内にある放射性物質を含む水について、トリチウム以外の放射性物質を安全基準を満たすまで浄化した水(出典:経済産業省「みんなが知ろう。考えよう。ALPS処理水のこと」[https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/hairo\\_osensui/shirou\\_alps.html](https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/hairo_osensui/shirou_alps.html))  
\*2 フィジビリティスタディ:具体的な条件を踏まえた実地適合性の検証



先端技術本部  
研究開発支援ユニットリーダー  
大八木 光成

## ● 摩擦発電による検知センサー

近年、身の回りの熱や振動などのわずかな環境エネルギーを集めて利用する“エナジーハーベスト”という技術が注目されています。現在、関西大学との共同研究により、人が通過した際に生じる摩擦のエネルギーを無線通信に利用した検知センサーの開発に取り組んでいます。この技術により、センサーのバッテリーを無くすことができ、エネルギーの有効活用が可能となります。



人が通過時に発生した電気をういてパソコンへ無線通信するセンサー

## ● 次世代型ペロブスカイトタンデム太陽電池用銀ペースト

再生可能エネルギーの拡大は地球温暖化防止に向けた大きな課題のひとつです。次世代のペロブスカイトタンデム太陽電池は、30%超の高変換効率が報告されていますが、工業的に電気を取り出す電極形成技術が未確立です。当社は世界の研究機関と連携し、製品化可能な電極形成材料として、銀ペーストを開発しています。この技術を使った次世代型太陽電池は、搭載面積が限られている自動車やドローンなどモビリティ用途への展開が期待されます。



太陽電池使用時のイメージ写真



太陽電池  
紹介ページ  
へのリンク

## ● 「ロータス フローボトル®」でフードロス削減

蓮の葉の撥水性をヒントにして、独自の表面処理をボトル内面に付与しています。そのため内容物が付着しにくく、最後の一滴まで「つるんと」使い切ることができます。キョーラク社と共同開発した本製品で、フードロスの削減によりサステナビリティな社会に貢献すると同時に、消費者の利便性を高めることで暮らしが豊かになることを目指しています。

内面の表面処理なし



上部から見た写真

内面の表面処理あり



上部から見た写真

## ● 人や動物、地球にもやさしい害虫忌避製品

生分解性樹脂および天然の安全性の高い成分を用いた害虫忌避製品を開発しました。人も動物も、吸血性害虫による健康被害は時に大きな問題となります。口にしても安全な成分を用いることで保育施設や介護施設、家畜や動物園などでも安心してご利用いただけ、吸血性害虫による健康被害を防止します。また、原材料樹脂には生分解性樹脂を用いており、土壌中で自然に分解されるため、環境への負荷が少ない防虫製品です。



害虫忌避製品用ペレット





# 環境保全



私たちは、製品による環境への貢献の他に、事業活動における環境負荷低減の側面からも環境保全に取り組んでいます。事業活動では、製造における各工程でのエネルギー使用の削減や、廃棄物の3R\*推進に取り組んでいます。また、生産拠点を中心とした15拠点ではISO14001の認証を取得しています。環境マネジメントシステムの効果的な運用を通じて、環境トラブル発生防止や各種法令の遵守に加え、環境負荷の低減を図り、持続可能かつ地球環境と調和した経営活動を推進します。

\* 3R:リデュース・リユース・リサイクル



## CO<sub>2</sub>排出量削減目標の達成に向けて事業所をサポートしグループ全体の環境活動をステップアップさせます

地球温暖化による異常気象が頻発する中で、脱炭素社会の実現をはじめ環境保全に貢献する企業活動の要望は年々高まっています。東洋アルミグループでは、事業活動からのCO<sub>2</sub>排出量を2031年度(2013年度比)40%減を目標にし、環境負荷をできる限り低減した事業活動に取り組んでいます。各事業所と連携しながらその目標の実現に向けたPDCAサイクルを回していくのが私たちの役割です。

2022年度は事業活動からのCO<sub>2</sub>排出量、産業廃棄物を前年度比で削減できました。ただし、これは市況の悪化で製造所の稼働率が低下したことが大きな要因となっています。本来のあるべき姿は、製造所がフル稼働している中でも削減を実現していくことです。各事業所では古い設備を省エネルギー設備に更新する、化石燃料からCO<sub>2</sub>を排出しないエネルギーへ転換するなどの環境投資を計画する他、本来廃棄していた物をリサイクルしたりするなど、さまざまなアイデアや工夫で

CO<sub>2</sub>排出量と産業廃棄物の削減を実施しています。そこでは従来の考え方を考える発想も生まれています。例を挙げると、モノを温めたり冷やしたりする設備の省エネルギーは、従来から温度設定を細かく最適に調整することで行っていました。温度設定の最適化から視点を変え、従来から使用してきたシステムに疑問を持ち確認することで、温度を合わせる制御を根本的に見直すことにつながり、長期的により省エネルギーにつながる結果として確認できた事例が出てきました。

私たちは事業所との勉強会やフリーディスカッションなどで効果のあった事例を収集して水平展開するとともに、外部の専門家の知

見や新技術をリサーチした新しい提案で、各事業所のCO<sub>2</sub>排出量や産業廃棄物の削減目標の達成をサポートしています。

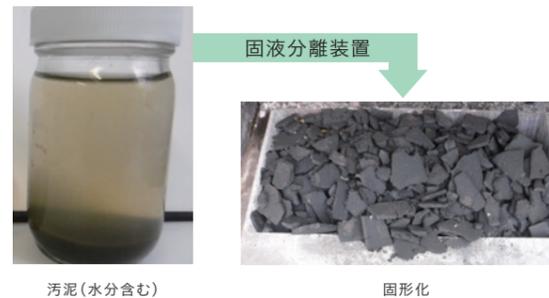
「環境保全」と言うところか他人事に感じてしまいますが、CO<sub>2</sub>排出量や産業廃棄物の削減は私たちの生活に密接に関連した非常に身近な課題です。私たちの未来を変える身近な課題として浸透させ、東洋アルミグループの環境活動をステップアップさせていただきます。



コーポレート部門  
エンジニアリングセンター  
ユニットリーダー  
渡邊 圭一

## ● 汚泥産業廃棄物削減

新庄製造所の分離槽清掃で排出される汚泥は全て産業廃棄物として外部業者で処理を行っていました。2022年度より稼働率の低い固液分離装置で、汚泥の固形化を実施したことにより汚泥関係の産業廃棄物発生量を81.3%削減することができました。稼働率の低い装置を有効に活用し、今後とも産業廃棄物の削減に取り組んでいきたいと思ひます。



## ● 森林認証製品の導入

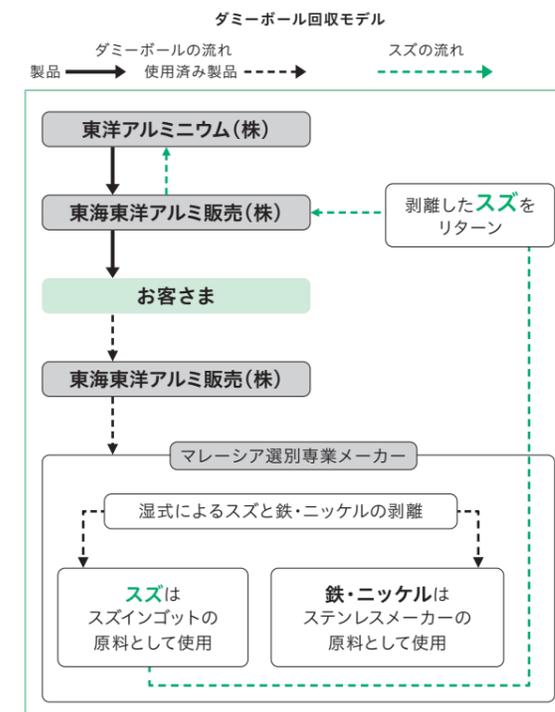
森林認証制度とは、適正に管理された森林から切り出される木材に認証マークを発行することで、持続可能な森林の利活用・保護を図る制度のことです。現在、世界では1分間に東京ドーム2個分ずつの森林が消えているとも言われており、この先、持続的な原料調達に難しくなることが予想されます。東洋アルミニウム(株)および東洋アルミエコープロダクツ(株)では、森林認証制度に積極的に参画し、認証森林から切り出された木材を使用して製造、流通、販売される認証マークのついた森林認証製品(環境配慮型製品)を生活者に選んで買っていただくことで、森林保護の支援や地球環境の保全に貢献するとともに、環境に配慮した企業経営やCSR(企業の社会的責任)への取り組みを継続的に推進していきます。



森林認証を取得した原紙を使用したおべんとうカップシリーズ  
「抗菌もっと深い®おべんとうカップ」

## ● ダミーボールリサイクル事業

東海東洋アルミ販売(株)では、電子部品製造用の工程材として東洋アルミニウム(株)で製造しているダミーボールを販売しています。2022年9月から回収業務をスタートし、2022年度の回収実績は19tになりました。最終目標は回収したダミーボールからマレーシアの協力会社にてスズ、鉄、ニッケルを取り出しインゴットとして再生、さらに再度ダミーボール製造用原料とし再使用する構想です。再使用が実現しますと東洋アルミニウム(株)からお客さままでも含め製品から製品へのリサイクルが完成することとなり、循環型社会へ大きく貢献すると考えます。



ダミーボール



# 多様な人財の活躍



私たちは、人を大切に企業として従業員の多様性・人格・個性を尊重し、「多様な人財の活躍」を目指しています。急速にグローバル化が進む事業環境の中で、海外人財の採用を推進し、長期留学・短期留学制度をはじめ各種教育プログラムを通してグローバル人財の育成を行っています。国内の少子高齢化による労働力人口の減少に対しては、育児休業・育児短時間勤務制度の充実や職場のバリアフリー化への検討を図るなど、性別や障がいの有無に関係なく力を発揮しやすい環境を整えています。他にも、女性のキャリア支援を行いプロフェッショナル職群へのコース転換も進めています。また、働き方改革に向けて、会議の削減と効率化・新たなITシステムの活用によるコミュニケーションの活性化を通じた年間総労働時間の削減、選択労働時間制や在宅勤務の導入などに注力しています。今後も従業員一人ひとりがライフワークバランスを実現し、多様な人財が意欲を持ってその能力を遺憾なく発揮できる環境を整えていきます。



自律型組織をより進化させ、多様な人財がイキイキ働き、業績への貢献につながる制度・環境づくりに取り組みます

自律型組織を目指してMXプロジェクトを進めてきましたが、2022年度には人事制度を年功序列から能力を中心とした評価へと大きく変え、その実現に注力しました。能力評価については複数の目線で公平性と透明性が担保できる形を整えており、定着してきています。また、キャリア開発支援制度への取組みを強化し、自らのキャリアを実現できるようポストを社内公募するジョブポストイング制度の運用をスタートしました。

人財の多様性は業績にも貢献できます。そのために環境・制度づくりに取り組んできましたが、女性が働きやすい職場環境に関して「大阪市女性活躍リーディングカンパニー」の認定を受けました。また、大阪府の「男女いきいき・元気宣言」事業者の登録も実現しています。大学院・大学・高校卒業の女性の採用は、2023年卒29.6%の比率となりました。各部署に女性がいるのが当たり前となるよう比率を増やしていければと考えています。フレキシブルな育児休暇に加え、2022年度

には「産後パパ育休」制度をスタートしました。全て有給扱いにし、取得率100%を維持しています。

また、労働力人口減少の中、シニア人財の活用は大きな課題です。段階的な定年引き上げを検討していますが、役割と報酬を紐付ける仕組みづくりも必要だと考えています。

2023年度は、2022年度で大きく変えた能力評価やジョブポストイング制度を定着させていきます。メンバーを巻き込み、チームで取り組むOKR活動の推進や、ライン職まで能力評価制度を進め、MXプロジェクトの総仕上げをします。

一方、事業のグローバル化が進む中で海

外人財の採用も重要です。継続して海外の高度技術者を採用していきます。さらに、障がい者雇用に関しては社内雇用だけでなく、会社として地域社会で安心して働ける場を提供できる仕組みづくりを検討中です。

女性、シニア人財、海外人財に加えて、障がい者や取組みの遅れているLGBTQ+に対応していくことも課題です。多様な人財に活躍してもらうことで、企業を多面的に発展させることができます。そのためにも誰もがイキイキ働ける人事制度・環境を整えていきます。



コーポレート部門  
人事総務ユニットリーダー  
氏江 達之

## ● イキイキと働ける職場環境の構築

女性にとって働きやすい職場環境の整備に積極的に取り組むことで、一定の基準を満たしている企業などを認証する「大阪市女性活躍リーディングカンパニー」の認定を受けました。また「女性の能力活用」や「仕事と家庭の両立支援」など、男性も女性もイキイキと働くことのできる取組みを進める意欲のある事業者を応援する制度、大阪府「男女いきいき・元気宣言」事業者の登録も実現し、より一層働きやすい環境が整っています。

2023年4月入社プロフェッショナル職従業員に関しても女性比率は41.6%であり、今後も性別や年齢に関係なく、全ての従業員がイキイキと、一人ひとりが活躍できる会社づくりに取り組んでいきます。



「大阪市女性活躍リーディングカンパニー」認証マーク



大阪府「男女いきいき・元気宣言」事業者認定マーク

## ● 外国籍従業員が活躍できる職場づくり

東洋アルミエコープロダクツ(株)滋賀工場では他事業所に比べ多くの外国籍の方が在籍しています。創業当時から季節による販売量の繁閑差がありましたが、年々大きくなり2010年以降慢性的に人員不足の課題が生じていました。そこで、工場のある湖南市は滋賀県で最も外国人比率の高い市でもあるため、2012年から多くの外国籍の方に働いていただいています。現在は従業員約120名のうち約4割の方が外国籍です。就労の大きな課題となる言葉の壁では、作業手順書を母国語に翻訳するなど、誰もが安全に作業できるように工夫しています。まだまだ課題はありますが、多様性を認め合い従業員全員が活躍できる工場を目指していきます。



外国籍従業員の作業風景

No	主なステップ	急
	—運転する(生産開始)—	
1	プレス機操作盤のエアスイッチが「入」になっているか確認する	
2	原液コート機操作盤のブレーキが「入」になっているか確認する	反対側にもある(左右)
3	原液コート機操作盤の電源を「入」にする	
4	原液コート機操作盤のタッチパネル左上の赤い「停止」をタッチする	停止状態では「停止」ボタンは点滅している
5	タッチパネル左上の赤い「停止」が、青い「起動」に変わったか確認する	変わっていない時は、左右の押しボタンが解除される
6	TX液送りポンプを指で触り、作動しているか確認する	作動していない場合はエラーに陥る可能性がある。その場合はフィルターがポンプ
	—停止する(生産終了)—	
1	プレス機が停止しているか確認する	
2	原	

Số	Các bước chính	Điểm quan trọng
	Chạy động(bắt đầu sản xuất)	
1	Kiểm tra công tắc khí ở bảng điều khiển của máy có ở trạng thái bật hay không	
2	Kiểm tra công tắc phanh ở bảng điều khiển có ở trạng thái bật hay không	Phía đối diện cũng có (trái phải)
3	Bật nguồn bảng điều khiển máy	
4	Ấn vào nút dừng (đỏ) màu xanh ở phía trên bên trái trong màn hình điều khiển	Trạng thái dừng (đỏ) chuyển động (xanh)
5	Kiểm tra xem trạng thái ở màn hình đã chuyển từ dừng (màu đỏ) / dừng (đỏ) sang chuyển động (màu xanh) / khởi động hay chưa	Nếu không thay đổi hãy kiểm tra bên xem các nút ấn dừng máy nhà ra hay chưa.
6	Chạm tay vào máy bơm dầu để xem bơm có hoạt động hay không	Nếu không hoạt động thì hãy sang bên trái van khí. Nếu vì hoạt động thì hãy thay dầu.
	Dừng máy (kết thúc sản xuất)	
1	Kiểm tra xem máy đã tạo hình đã dừng hay chưa	
2	Ấn vào nút dừng màu đỏ (dừng) trên màn hình điều khiển	

ベトナム語に翻訳された作業手順書

## ● 「キャリア開発支援制度」の強化

従業員の自立的なキャリア開発を支援する仕組み「キャリア開発支援制度」についての取組みを強化しています。自主・自律型を支援する施策として、社内公募によるジョブポストイング制度の運用を開始し、自らの意志でさらなるキャリアを実現することが可能となりました。また、自身のキャリアについて考える機会を設けるため、階層別研修としてキャリアデザイン研修を導入しました。自律型組織として、従業員自ら自身のキャリアを築き、イキイキと誰でもチャレンジできる環境を整えていきます。



# 品質と安全



私たちは国内外のグループ会社16拠点でISO9001の認証を取得し、継続的に品質改善に取り組んでいます。安全面では、各生産拠点に安全衛生事務局を配し、グループ安全統括チームがそのマネジメントのセンターとなり、本社と生産現場が丸となって労働安全衛生活動に取り組んでいます。また、私たちがサポートいただいている委託先の品質・安全に関する責任についても全うするため、委託先の自主性を尊重しつつ、品質パトロールや貸与設備の安全立会いなどを積極的に支援することで自社グループ生産拠点外での事故・トラブルの未然防止にも努めています。これからも私たちはお客さまから一層信頼いただける企業を目指して、社会規範を遵守し、さらなる品質・安全の向上に努めていきます。



## ● 安心・安全な製品をお客さまにお届けする品質体制の構築

2022年度は重大品質クレームゼロを達成しました。2年前の重大品質クレームの反省を踏まえ、変更点管理を強化してきたことや、事業所間の相互監査による再発防止策の効果検証が功を奏した結果であると断言したいところですが、それはこれからも重大品質クレームゼロを継続できて初めて言えることだと考えています。

品質保証部門は事業部門と独立した組織ですが、実際は各事業所に駐在して業務を遂行しています。そのため各事業所の強み、弱みを理解した上で事業部門を支援することも我々の役割であり、改善活動や再発防止策立案の支援、設計開発段階での支援などが自主的に主導的に進められる組織を目指しています。これからも事業支援と独立性を両立させて、安心・安全な製品をお客さまにお届けするしっかりとした体制を構築していきたいと思えます。

## ● 防虫対策

箔製品は食品や医薬品の包装材、リチウムイオン電池外装材などに使用されるため、品質管理基準が年々厳しくなっています。中でも製品への虫の混入は流出させると重大なクレームとなるため、流出防止の強化とともに発生原因となる虫を工場内に侵入させない対策を各事業所で取り組んでいます。この取り組みを各事業所の防虫事務局が主導で情報共有し、効果的な対策を水平展開することで効率よく継続的に防虫効果を高めています。また、この活動はパウダー・ペースト事業本部の事業所にも展開を開始しており、東洋アルミグループ全体の虫混入による不良を削減することに貢献しています。

## ● 事業継続のための重篤リスク低減活動

グループ安全統括チームは、社長直轄の組織として東洋アルミグループが継続的に社会貢献を行うため、重大な社会的影響を与えかねないリスク、経営に損失を与えかねないリスクの低減を目指して活動を進めてきました。「リスクはそれを認識するだけで低減する」という考えを基本として重篤災害リスクの抽出に取り組みました。具体的には各事業所の安全診断の方法を見直し、重篤リスクに特化した活動や、各事業所が気づきにくい重篤リスクを科学的・技術的必然性を基に説明することで各事業所のリスク低減につなげてきました。加えて、国内全事業所を対象に災害発生時に職場ごとに全員が機動的に動き、3分以内に対処できる訓練を実施し、訓練の課題を抽出して次の訓練に活かして、会社への影響を最小限にする仕組みを構築いたしました。今後も安全は最優先事項であることを肝に命じ、不断の活動を継続していきます。



初動訓練の実施風景

## 品質

重大品質事故ゼロを達成  
その継続と、不適切行為を  
誘発しない環境づくり、  
不適切行為ができない仕組み  
づくりに取り組んでいます

各事業所の品質保証活動を支援してグループ全体の品質保証レベルを向上させ、重大品質事故ゼロを達成するのが私たちの役割です。そのために重大クレームにつながりやすい変更点管理の強化と、一般的なクレームに対してもしっかり対応できる是正処置のレベルアップに取り組んできました。その結果、2022年度は重大品質事故ゼロを達成しました。これは単年で満足するものではなく、継続してこそ意味があります。気を緩めることなく変更点管理の強化と是正処置のレベルアップに取り組んでいきます。

2023年3月に公表した「品質等に関する不適切行為」の再発防止対策では、不適切行為

を誘発しない環境づくりと、不適切行為ができない仕組みづくりの両方を実施しています。社長が全国の14事業所で従業員と直接対話して再発防止への決意と意識改革を伝えたことで、従業員のコンプライアンス意識を高めることができました。仕組みづくりでは、現場で働く人たちが内部通報制度を積極的に活用する第1のディフェンスライン、私たち品質保証部門の監査による第2のディフェンスライン、内部監査チームが品質に関する不正ヒアリングを実施する第3のディフェンスラインと3つの防御策を設けました。

不適切行為を誘発しないためには、製品の仕様書を締結する際に、工程能力指数\*の考えを理解した上でお客さまと交渉できる人財が必要です。各事業所の品質保証部門には統計的品質管理手法を理解し、実践できる人財を配していますが、さらに充実させるための人財育成に取り組んでいます。

ISO9001の審査の際に、品質においてもカーボンニュートラルの動きと連動して考えることが必要という意見をいただきました。また、お客さまからのアンケートで人権方針に

ついて問われるケースも多くなっています。今後は品質保証においてもサステナビリティの視点を活かした活動を検討していきます。

\* 工程能力指数:ある工程の持つ工程能力を定量的に評価する指標のひとつ



コーポレート部門  
品質保証  
ユニットリーダー  
山越 哲弥

## 安全

事業所と一体となって、会社  
存続に重大な影響を与える  
重篤災害・事故リスクの撲滅  
に挑んでいます

私たちグループ安全統括チームは、会社の維持継続に影響を与える重大なリスクにフォーカスし、その撲滅を目指す活動を中心にしています。事業活動が停止する代表的なリスクである火災に対しては、火気事故を未然に防止するとともに、出火しても最小限の被害に抑える初期消火訓練の強化に取り組んでいます。法令に定められている訓練だけでなく、各事業所の職場ごとに全参加者が役割を持って取り組む小チームでの訓練を展開しました。今後は夜間火災を想定した訓練など条件を厳しくしたりして、訓練の頻度を上げて初期消火のレベルアップを目指していきます。

操業における日々の安全活動に加えて、重大なリスクを意識した活動に取り組んでもらうために、私たちは「リスクは認識するだけで

低下する」という考え方を基本にしています。そのために、過去に起こった災害や事故の風化を防止する活動を新たに始めました。重大災害の発生日に、その災害を振り返ってもらうなど、重大災害を後世に語り継ぐ活動です。当チームではこれまで約30本の安全動画を配信していますが、風化防止に特化した動画も配信を始めました。当時の関係者に登場してもらい、事故や災害が二度と起きないように後世の人にはぜひこうして欲しいと語りかけるような動画で酸欠事故、油漏れ事故、全身火傷の3本を制作しています。この動画の反響は大きく「動画を観て思い出した。あの事故を教訓にして今、こんな対策をとっている」というように、各事業所内で話し合うきっかけになっています。

事故や災害はほとんどの場合、リスクを知らないことから起こっています。人はリスクを知らず自然とそのリスクを避けようと行動するのです。逆に言うと、リスクを知らずに対策や手順だけを守っていても、いつかは事故や災害が発生します。私たちは安全のドクターとして、各事業所の安全活動を診断するとともに、活動について悩みや疑問があれば、一

緒に対処方法を検討し、その実行をサポートすることで、グループ全体の安全文化の成熟に貢献していきます。



グループ安全統括  
チームリーダー  
猿渡 昌隆



# ステークホルダーとの協働



私たち東洋アルミグループは、生産活動や雇用を通して地域の社会経済活動に貢献しています。また、地域社会と協働して、文化事業への支援や環境保全活動への協賛、NPO法人を通じたフードバンク活動への協力や支援活動などを積極的に進めています。

さらに学生の企業訪問受け入れを通じて次世代育成への貢献活動にも力を入れています。その他、従業員による地域の清掃ボランティア活動や、自然災害により被災された地域への支援活動など、さまざまな活動を通じて今後も積極的な取組みを推進し、持続可能な社会へ貢献することで、さらなる企業価値の向上を目指します。



社内外の情報を集めるハブ機能を強化し、SDGsや社会課題への取組みを発信  
ステークホルダーとの対話を重視しながら企業価値を高めていきます

社内外の情報を循環させて発信力を強化し、東洋アルミグループをステークホルダーに知ってもらいファンになってもらうことが使命だと考えています。2022年度はテレビ放映、公式YouTubeによる発信などメディアを通じてステークホルダーとのコミュニケーション確保に努めました。メディアからの問い合わせが多い「トータルロータス®」などは動画を制作してYouTubeにアップしており、小学生向け教材やクイズ番組にも取り上げられています。その他、新聞などの記事掲載は2021年度比50%増の86件、また、初めての媒体としてラジオ番組で社長インタビューも放送されました。さらに、コロナ禍で中断していた高等学校の企業訪問受け入れを再開し、東洋アルミグループの理念やSDGsへの取組みなどを工場で学んでもらい好評を博しました。

2023年度は、社内発信をさらに強化して

いきます。社内報をブラッシュアップし、「社内報アワード」などに応募して外部からの評価も受けたいと考えています。また、社長の従業員に向けた生配信「四半期報告みんなで創る」も新たに担当し、業績報告の他にトピックスを含めるなど多角化した社内情報を発信し、経営者と従業員との対話に役立つツールにしていきたいです。現在40件の動画を公式YouTubeにアップしていますが、動画をご覧いただいた方の問い合わせやメディアからの取材などの依頼も増えており、継続して力を入れていきます。同時に、科学技術館のイベントなどで子どもたちと直接触れ合い、アルミニウムの素晴らしさを伝え、小さい

頃からアルミニウムや当社を知ってもらう活動も再開したいと考えています。

中長期の取組みでは、株式上場に向けた情報開示の準備など、上場を意識した広報活動も視野に入れています。また、引き続き、自治体との連携や森林組合とのパートナーシップ協定締結、NPO法人を通じたフードバンク活動への協力など、社会貢献や地域との触れ合いを考えながら活動しています。

今後も、さまざまなステークホルダーの皆さまとの対話や協働を進めるとともに、SDGsを意識した活動を推進し、その情報を発信することで東洋アルミグループの企業価値を高めていきます。



コーポレート部門  
経営管理  
ユニットリーダー  
笹 吉希

## ● 医療サービスカーの寄贈

2022年7月5日、インドHaryana州のNPO法人Niramaya Charitable Trustによるアイケアサービスカーの運用開始式典が催され、アイケアサービスカーを寄贈したスバム トーヤル社も来賓として招かれました。開発途上国では医療や教育の格差問題は深刻で、インドの企業は利益の2%以上をCSR活動に支出することが法令化されています。インドの貧困層や農村部の人たちは十分な眼科検査を受けることができず、失明してしまうことが珍しくありません。少しでも失明する方を救えることができたらと願っています。



アイケアサービスカー運用開始式典

## ● マングローブの植樹

タイの首都バンコクの南西70kmに位置するクロン・コーンに、マングローブの森があります。ここでは約30年前、マングローブが伐採され、エビの養殖場となりました。その後、海が汚れて養殖場は閉鎖され、その跡地で24年前、再生植樹活動が始まりました。



マングローブ植樹風景

2022年11月26日にトータル(タイランド)社のスタッフ5名が植樹活動を行いました。手で泥をかき分け穴を掘り、苗木を丁寧に植えていきます。手や顔が泥まみれになり、童心に帰っての植樹活動です。水、樹、土に触れ合い自然を肌で感じるひと時となりました。これからもこのような社会貢献活動を続けていきます。

## ● さまざまな媒体でステークホルダーに発信

2017年に開設した「アルミニウムの自由研究」サイトが小学生や保護者に好評を博している一方で、最近ではメディアや子供向け刊行物の出版社からも注目されています。今年にはトータルロータスが蓮の葉という自然からヒントを得たバイオミメティクス の例として「子供の科学」や「レッツSTEAMチャレンジ! 発明編」という教育関係の刊行物に掲載されました。アルミニウムの魅力をより多くの人に知ってもらうために、テレビから、ラジオ、Web記事、子ども向けの刊行物など多岐にわたる媒体での発信に注力しています。



教育関係の刊行物への当社技術の掲載